

伯利西國時報

發行處
聖市アーヴィング
街二六「郵局」一
電話七一四六七〇
研修
年一月一
六時半
伯利西國時報社
(本週三日發行)

吾人の大業は將來あり 一致結束向上を計れ

駐伯帝國大使



米露圓の關係調整の爲努力をなす事不外の次第である。

一方經濟發展は常に各國の

防衛壁に阻まれ其の調節容易な

らず、日蘭、日蒙、日印等の交渉

は或は中絶し、又は進行中のもの

雖も、何れも未だ解決の域に達

して居ない。是等圓闊に對しては

熱意を以て此の難關を乗り越へる

國運の伸張を計らなければなら

ないが、之れを同時に緊張の餘り

硬直して却て後指監を誤るが如

き事つゝはならない。要するに

内に磐石の心を藏し、慾々諤

氣分を以て他に焦らず歩一步

確実に歩みで踏みしめ、以て國運

の進展を計る事が正に我等の迎むべき道である。

翻つて、既に我が國に對するに

見事な看取る。例へば歐洲に付

べき事よりだが、一方廣く眼界

を擴ひ、斯く難關

の全局に注がば、斯く難關

は強ち我が國に限られた事象で無

い事を見取る。例へば歐洲に付

べき事よりだが、一方廣く眼界

を擴ひ、斯く難關

の全局に注がば、斯く

洋への販路が一層複雑さを増す中、間接邦人の受くる利益も一層大きくなるのであらう。而して此對日本輸出の成功の裏には留同農業者の過多の苦心の結果に依る事多き事自白覺して一層作物栽培技術上勿論、駅舎、品質方面に改良なる事駆へ生産物の商品價値を上げる事めなければならぬ。



自口を捨てよ



八法

力の要は力を使ふことであつて、
それを濫用することではない
例へば、軍備のようなものであら

其之
石頭
直之
石頭
曉書

に注意を拂はなければならぬ事 だと思ふ

農業の機械化

れすに比較的の均衡を保つて居り動
もすれば農村生活の要素が脅威を
受くる心配なく却つて活潑なる進
展を爲しつある事實に現状で
ある農工兩界の並立共存は一般
経済体の堅固な基礎を築くもので
あつて誠に喜ばしき事である今珈琲
栽培労働者を百五十萬人其他作物

率方面の發展は最近愈々目覺し、い勢に進みつゝあり殊に亦日伯賣勢の移り變りと共に茲に新紀元を劃するに至つたことは對伯賣植事であつて年が更よりて更に一層進展するだらうと考ふる事は確持は三千年の歴史も有する日本獨自の傳うより來るものと考へる爲めには當る風も強いの譬への通り客來年來二分制即ち民間問題が上邦移殖民の數に於て大打撃を受けるに至り遺憾ながら聖州農民んでゐるが今日の有機である。併し人であるが我が社會の教育問題や同化問題が引續き相たう論議せられてゐるが我國の平素のやうに事ある毎に周章する必要はない。何ぞわが方が足らない爲めではあるまいか昔から「下手の考へ休むに似年は腰を落付けて變り行く時局に對し能く考ふる事が絶対に必の二三の考へ方を述べて見やう

を落付けて 時局に對應せよ

新年の駄句

去年今年鐘一韻の境
な

哉去年忘れ心一暮の4月
若水や心身洗ふ「シテ
ワ」の音
初日影雪はなくともど
らゝなり
書初や稚子も書きたト
天下一臥せわしさよそこ
正月やせわしさよそこ
三ヶ日
うらゝかや草食ふ牛に
臥た牛に

即ち、希望に輝やくと云ふことが
人間の幸福の源であり、且若々
私の心持ちが短かい文句に「
望み心に満つれば、人老ゆると
云ふのである。故に男女も何ん
ならぬ

「其他の大切な農業作業を怠る、中耕除草土寄せの如きは勿論、甲乙なく大切なものであつて、耕作費も莫大な事である。」

化され得る事無く、其の上進増加を

謹賀新年

支店 [支店] [市内事務所] [本店]
聖市ブタンタン街二番 電話八二五八七 郵函二一八六
サンベント街二九〇番二階十八号室 電話二二五六〇〇七
聖市イタブーラ・デ・ミランダ街十七番
パウル市ブリメイロ・デ・アゴスト街二一二番

聖市ブタントン街二番 電話八二五八七
サンベント街二九〇番二階十八＝十九號室 電話二一
聖市 イタブーラ・デ・ミランダ街 十
パウル一市ブリメイロ・デ・アゴスチト街二

二八六
五六〇七

正賀

イムペリア

縫講習所

伯國一手販賣

正賀
旦元月一
歯科醫
岡山孝李

喪中に付き年賀缺禮
タナアミ美容院
田名網彦藏
サンバウロ市コンセレーロ・フルタード街五〇

懸賞當選短歌

等當選歌
サントナースタの方
清水勝馬

て幼なし ロンドリーナ 佐々木 茂李於
初かまざあかあかとして 燃え盛り音の高きを目
出度く聞きぬ

ランシャリア 森 啓

バストス移住地 源友次
森かげの日ざし遅きを。かちつゝ塵掃き寄せて
糞干しにけり

コナンベー 水仙
望みはや絶えて最後のカンフルに神の奇跡を念
じたりしに（愛兒に死別して）

宣外佳作一首
の夜はい廢るに早・谷そひの家
の灯のすで消にいたり
ピリカキ 尾形 天涯

思ふ値に米の實れしこ歸るさは
の眼鏡を買ひて戻れり
バフクロス駆 岩本龜太

チエテ 吉川 毒樓
に泥あらずそめの桜の花
空 風潮が流るばかりなり
手造りの松竹梅や 假住居

日暮なくぐりてはどつまいてゆへ
間 鈴木抱春
婚禮の行列真し 日除下
雷や 湿見の人の立らるる
夕立に追はれて着きの戻りバス
病床を移して拜む 初日にな
局 佐藤潔子
豆蝶の飛び立ちにけり 瓜の花
サボテンのすがれし雨となりにけ
り オリムピア中井はじめ
柏畑を彩る初日 拝みけり
ブレシアンセ 佐藤漢歩
涼風の吹いて御殿を申しけり
リオ
日盛りな 柏木 描ひけり
サントス 増田恆河
萍の止るこきなし 金魚鉢
雷 鳴りぬけろなり 柳子の宿
カフェーランヤア 橋本日童
土くれはまじきものよ柿を蒔く
リベイロンビレス 宮地房子
耕主より分け貰ひし雑穀かな
ドアルチーナ岡村双子葉
セードロ 村上拓未
老の身の汗 拭いて年惜みけり
乾 松窓
盗賊のこもる噂さ 夏の森
同 佐藤譜魅雄
白粉の花 散り乾く砂がな
プロミツソン上村筑水
萬年の花ガールドに 坂舍しな
綱打の三騎達なり 月夜道
アリア サ 森 白郎
タ立の来るらしき御し、吹く
日履スル降りこめられ 小屋の喜雨
同 吉川耕花
縁起の包なのぞく姉妹がな
梅木朝郎
翁 万城目金之助
翁二つ入口一つ 故の宿
同 日沖井村
歸省子の包なのぞく姉妹がな
佐藤 倫子
青芝にまじりて咲けり 日照草
選後に 眼鏡
目黒はるえ
縁陰や 折紙細工 始まりの
若干句を遺した
▼一言にして云へば不機である。
第一、一人五句のふことが今日
の俳家に見なされる人三十四、飛
入りと見なされる人五十九であつ
て、何も比較するのではないが結
果として前者が遙かに優つてゐた
ことは當然とも云へる。
各等を察し、入賞五句、賞外佳作
位でなければ嚴選でなくとも仲々探
句がないのである。選者の私な
かも知れない。點、とも一人十句
位でなければ厳選でなくとも仲々探
句がないのである。選者の私な
かも知れない。點、とも一人十句
位で遠慮せず次回には一人十句と
するがいいと思ふ。

其の感じが深い。百姓を樂しむ事
ある壯夫が想像される。
第三句は、日陰の網が風に自然
ゆるんでゐることは想像にまつて
ゐる。一寸したこな釦じごと
みつたことによつて雷鳴の遠い
の氣づいたといふ意がおもしろい。
第五句は、「彈む」の一語がよき
質感である。これが若し他の
葉であつたら恐らくこれ程の
趣が出来ないことであろう。

目鏡に二二ぢ、三すぢを
流れ込んで
この蟲に俺の汗が紙りに來た
汗 汗を埃に汚れた
絶土色の脳に
がみついて逃げていった
わるい娘だ
小さい蜜蜂がと思つたら
スピードでいるんだ
活動寫眞のやうに瞬く
かち／＼の労働節で包んだ爪
バナナの皮を踏んだやうに
ねる／＼とすぐつない
まわ、この汗の腐つた臭ひを
嗅いで見給へ
これが俺達の生活の奥ひだ
二等 夏

比佐 志也

見る虫の爪さきからも美しい透
ほつた空
水のかげりのやうに満いた白
夏が
ほんのりさ大の鼻さきにも匂
ふは泥龜のやうな犬さ居座つ
温る感觸に
草葉を噛んでゐる

イツベラーベ 岩後原 美

夕暮れの大河のほさり
閉ざされた水門の
ぶつがつて、暫し濁む水に
友よ私は彼女の淡き一生を見渡
かすかにゆるる波紋は
彼女の美き微笑か
千筋の彼女は、穏やかな心の
彼女は豊かな涙をぬけるは
せまゝ夕闇、幻的な宿し
瀬音は彼女の玉やうな
心の響ひつたへてある

○ 斷片 よし。あ

I 豊満な股脛を
縦縦糸のベッドに
横へてゐる 白 霞

II 強烈なる光線を
激刺した熱情の
混合酒

III 木の十字架に
被瘞器に泳がせて
死より深い悲哀
野獸性 (△)

賀新年
日本品輸入商
中矢商店
昭和十二年一月一日



牛年
新年の春
新作漫才

柳家長松壽

謹賀新年
サントス日本人會

昭和十二年一月元旦

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

賀正

サントス地方醫局
イタリリー出張所

武田義信
助手大城清幸

電 五七七八

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

Confeitaria
SANTOS

和洋菓子
製造卸小賣

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

富士旅館
館主新城清助
サントス市アベニーダ・カンボス・サーレス一六一
電話二八四七

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

吉廣義助
農產物商
サントス市セッテ・デ・セテンブロ街一三二
郵便九二三

Exportador de peixe
Aduma Sameshima
Banca No. Mercado
SANTOS

鮫島魚問屋
店主鮫島東
ナントス市マルカードパンカ五番
鮮魚の御注文は日本人間唯一
詳細御聞合せ下さい。

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

鰯島魚問屋
店主鮫島東
ナントス市マルカードパンカ五番
鮮魚の御注文は日本人間唯一
詳細御聞合せ下さい。

謹賀新年

一月一日

農產物仲買
及委託販賣

ルア・ジュリオ・コ
ンセツソン一七四
石油會社特約店
電話五七七二

謹賀新年

一月一日

正賀
旦元月一
バール宇野
ノロエヌチ變更線グフランバス町
宇野吉之助

正賀
且元月一
建築設計
家具製造
保科松五郎
ソシス市
郵函二〇〇
三三

正賀
旦元月一
雜貨商
池田清田商會
リンス市ルイスガマ街

正賀
旦元月一
—
橋爪重兵衛
バール日本
ソンス市本通り
郵函二〇三

謹賀新年
元月一
精米所
東山代理人
森部一衛
精米所
東山代理人
果樹園及苗木
リソス市

賀	正
日一月一	日一月一
▼▼	▼▼
八	防

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

謹賀新年
一月一日
合組工商ラサキワグ
畑野宗太郎
本田 濱作授
奥山忍親吉由
鴨原田庄藤
村田藤
齋藤
森部一藏

謹賀新年
一月元旦
神崎春一
生魚の取り次ぎ
御料理の仕出し

長 海 外 協 會
カフエランデヤ支部

謹 賀 新 年 一 月 元 旦
高級諸刃物
製作所
藤原宗貞

謹 賀 新 年
昭和二十一年一月元日
—
今 田 小 野 求 誠
リ ン ス 地 方 警 局
市 リ ン ス

ビンガ醸造業
仲野隆義
サンス輝
サンジョオン植民地

謹 賀 新 年
且元月一年二十和昭

謹 賀 新 年
一 月 元 旦

謹賀新年

日 本 人 會
共 濟 年 會
婦 女 會
，ンス隣ナンショオン植民地

正賀年新賀謹
正賀元月一

歯科醫

和泉春一

皆様御愛用下さい
總義齒(シャツバ)レゾービ
ンは堅牢優美にして自然色

リンス市本通り

正賀
且元月一
バール大坂
山田豊作
リンス市本通り

謹賀新年

青木祐雄兄弟商會

謹賀新年

謹賀新年
昭和拾二年一月一日

リソス商工組合

同 雜 貨 濱 崎 末 藏 次
鐵工所 廣原 大西 留三 郎
製麵所 我那霸宗
製菓所 高橋 增
鐵工所 那霸宗
同 仲買 原中庄
同 仲買 原中庄
旅館 田中
鐵工所 高橋 增
精撰所 那霸宗
雜貨 菅原 中庄
鐵工所 森下 銀太郎
貨物 下山 銀太郎
貨物 矢治一郎
貨物 輝三郎
本 田 同 仲買 原中庄
本通り リンス市本通り

新年感

主支石黒
太郎

の、形

數の多、

父が顔、聲めざるを得ないので

あります。

斯く観じ来る、新年が到来して

も一向目出度くない様になりま

すが、然し人間の事はさう簡単に

片付ける事には参りません。朝起

ても顔を洗はねば氣持が悪く、

衣服を身に着けるにも座な拂はれ

ば心地が良くならないやうに、日常の

事にさへ新らしき求め、清らか

なるが欲するのが人情の自然であ

るのありますから、まして地球

が廻轉して三百六十日が過ぎ、

此に新たなる一月一日が生れ、今

日此の朝、どうして御目出度くな

いと言ひ得ませう。矢張り人間自

然の心持からして、心な清淨に

意を新たにする上に、新年は御

出度う御座いますと云はざるな

いのです。

さて新年は御目出度う御座います

申しますと、其の次に附いて來

るものは舊年中に愛顧蒙つた感

謝の念で、これに續いて、済く

のは新年も相變らずと云ふ願望

の續てが感謝を願うのであります

。何うか大方の皆様方に於かせ

られては、私の正直に眞面目に努

力してゐるを云ふ点に御同情有き

延長は、地域の上から申し上げ

あります、本年は舊に依り御慶願

賜にんこそ御願ひいたしました

。何うか大方の皆様方に於かせ

られては、私の正直に眞面目に努

力してゐるを云ふ点に御同情有き

いまして、本年は舊に依り御慶願

賜にんこそ御願ひいたしました

。何うか大方の皆様方に於かせ

られては、私の正直に眞面目

意義深
かからべき年
であるからであ
ります。牛は農家に取つて大切な

牛

年

事

が

も

と

は

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う

な

い

う



欄換交刺名

在伯帝國大使館	澤田節藏	江越信胤	中野巖
澁澤信一	北村豊治	坂本靖	明穂梅吉
三浦文夫	宇野忠夫	東後一美	
小峯俊一	北村政吉	豊吉眞水路	
鈴木美太郎	南條榮	長谷川武	
入江一清	金城慎義	平山惣次郎	
市毛孝三	金田宣雄	新富直吉	
淀川正樹	早尾季鷹	山田一雄	羽原貢一
菱川敬三	石原直憲	長尾庄次郎	サンバタロ市
高橋郁夫	柳原桂太	衣川滋雄	セガラナ・カシマ市
古川薩然	藤本正磨	カシマ・小学校	カシマ・バス停
荒木外喜三	中川忠	セガラナ・カシマ駅	セガラナ・カシマ市
福川薩然	齊藤武雄	カシマ・カシマ中央區	カシマ・カシマ市
在ペレン	在ペレン	在ペレン	在ペレン
古關富彌	在ペレン	在ペレン	在ペレン
原節	上原直義	清水文信	村井稔弘
水田隼人	須山學之助	西山悟	松尾松次郎
相馬速	池友治郎	源河幸永	毛呂正俊
宮平市寛	平坂豊七	今富正平	藤澤貞治
塘龜太郎	藤澤高雄	服部新治	伊藤助一
山口牛松	渡邊新太	前田兼作	西川喜諾
吉永儀平	木村末松	手嶋和三郎	藤井政人
吉水製糸所	吉水製糸所	池戸忠次郎	池戸忠次郎
ノロエスチ葉足線	ノロエスチ葉足線	鈴木季造	鈴木季造
グラフアベス線	グラフアベス線	舍川見太郎	舍川見太郎
プロミツソン町	プロミツソン町	八尋鶴一	八尋鶴一
プロミツソン町	プロミツソン町	尾崎孫三郎	尾崎孫三郎
プロミツソン町	プロミツソン町	嘉悦千代喜	嘉悦千代喜
プロミツソン町	プロミツソン町	坂本留次郎	坂本留次郎
プロミツソン町	プロミツソン町	日野千次郎	日野千次郎



欄 换 交 刺 名

秋 知 妻 文 吾 郎	高 野 桂 秋	琴 崎 正	波 部 勵	笛 田 正 數	松 本 高 信	木 下 正 夫	末 松 緑	烟 中 仙 次 郎
我	ア フ リ ク ラ 小 學 校 バ ストス 移住地 バ ストス 駅便局 バ ストス 小学校 バ ストス 移住地 ゲン フィン 区	バ ストス 駅便局 バ ストス 移住地 バ ストス 駅便局 バ ストス 移住地 バ ストス 移住地 山 岸 又 次 郎	バ ストス 第一小學校 バ ストス 移住地事務所 白 岩 宮 佐 織 木 下 手 島 百 合 子 齋 藤 靖 一 木 島 一 真 郎 郎	バ ストス 移住地事務所 フ ラン シ ナ リ ア 郎 フ ラン シ ナ リ ア 郎	バ ストス 移住地事務所 フ ラン シ ナ リ ア 郎 バ ストス 移住地 ア ロ リ ア 第一區 第五組 水 本 春 薫 造	バ ストス 移住地事務所 フ ラン シ ナ リ ア 郎 バ ストス 移住地 ア ロ リ ア 第一區 得 丸 泽 藏 久	バ ストス 移住地事務所 フ ラン シ ナ リ ア 郎 バ ストス 移住地 ア ロ リ ア 第一區 白 須 千 之 助	バ ストス 移住地事務所 フ ラン シ ナ リ ア 郎 バ ストス 移住地 ア ロ リ ア 第一區 小 林 平 志
笠 井 兵 十	又 野 伍 市	山 田 國 三 郎	長 谷 部 三 義	段 村 政 七	高 田 未 松	水 本 春 薫 造	得 丸 泽 藏 久	前 溝 部 幾 一 大
矢 野 彦 次 郎	吉 岡 榮 藏	長 島 多 喜	疋 島 富 六	向 井 精 一 郎	山 下 定 八	高 田 市 次 郎	安 倍 利 平	小 田 久 一
今 村 新 藏	横 溝 久 五 郎	堀 川 作 治	大 塚 賢 次	坂 井 大 吉	西 謙 次 郎	河 端 孝 治	門 脇 鶴 見	岩 本 一 郎
山 田 貢 一	頼 則 善 衛	千 賀 米 吉	川 原 政 衛 門	須 山 勘 一	戸 根 寅 太 郎	西 浦 宇 治 郎	小 齊 宗 雄	山 田 登 幸
日 冲 刚	渡 邊 茂 吉	樺 葉 彦 平	勝 田 正 通	安 岡 桂 太 郎	古 關 德 彌	石 川 增 太 郎	村 上 茂 人	野 村 隆 輔
清 水 榮 介	五十嵐 重 虎	島 多 賀 豊	北 原 正 男	大 浦 光 次	安 江 惣 右 衛 門	酒 井 伊 勢 芳	島 村 壽 吉	島 袋 盛 英
松 谷 正 志	橋 本 俊 次	石 井 節 子	古 澤 典 穂	笠 原 峰 生	川 地 速 水	小 松 美 好	安 田 知 晴	村 田 道 之 助
橋 爪 昇 吉	福 久 草 植 地	鈴 木 泰 三	下 浦 正	平 江 安 雄	吉 加 江 薫	櫻 木 鐵 造	原 口 崎 藏	田 烟 長 之 助

正賀 旦元月一
大阪屋製菓所 古川涉
 每週水・木・土・曜日にフィッタ
 ーも毎回取扱へて上映致します
 本年も何卒宜しく御引立願ひ
 ます

謹賀新年 トーキー映寫
バストス・シネマ館 館主古賀善三郎
 パストス市街地郵函二八二

謹賀新年 昭和十二年一月元旦
バストス製糸工場 吉浦秀次郎
 外從業員一同
 パストス市街地郵函二三〇

謹賀新年 昭和十二年一月元旦
有北商店 有北祐太郎
 パストス市街地郵函二三〇

謹賀新年 一月内外雜貨
 並に食料品

年賀新 日一月
植田連 土棉花仲買
 パストス隣接地ナンルイス町

年賀新 一月
竹下寫眞館 竹下寫眞館
 パストス市街地郵函九三
 謹賀新年

年賀新 一月
ミカド文房具店 中池永守
 金森一男進
 パストス市街地

年賀新 一月
田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

Pharmacia Nossa Senhora da Apparecida
 Phco. José Cândido de Mancilha

局藥ダーシレバア
 ドーチンカ・ゼヨジ
 ヤリーシンマ・デ
 馨瀧福
 三八三函郵地街市ストバ

年賀新 一月
田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

謹賀新年 昭和十二年一月元旦

田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

年賀新 一月
植田連 土棉花仲買
 パストス市街地郵函一三

年賀新 一月
竹下寫眞館 竹下寫眞館
 パストス市街地郵函九三
 謹賀新年

年賀新 一月
ミカド文房具店 中池永守
 金森一男進
 パストス市街地

年賀新 一月
田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

謹賀新年 昭和十二年一月元旦

田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

年賀新 一月
植田連 土棉花仲買
 パストス市街地郵函一三

年賀新 一月
竹下寫眞館 竹下寫眞館
 パストス市街地郵函九三
 謹賀新年

年賀新 一月
ミカド文房具店 中池永守
 金森一男進
 パストス市街地

年賀新 一月
田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

謹賀新年 昭和十二年一月元旦

田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

年賀新 一月
植田連 土棉花仲買
 パストス市街地郵函一三

年賀新 一月
竹下寫眞館 竹下寫眞館
 パストス市街地郵函九三
 謹賀新年

年賀新 一月
ミカド文房具店 中池永守
 金森一男進
 パストス市街地

年賀新 一月
田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

BAR e RESTAURANTE
IKEDA
 TEL. 30 - BASTOS - EST. RAN

年賀新 一月
植田連 土棉花仲買
 パストス市街地郵函一三

年賀新 一月
竹下寫眞館 竹下寫眞館
 パストス市街地郵函九三
 謹賀新年

年賀新 一月
ミカド文房具店 中池永守
 金森一男進
 パストス市街地

年賀新 一月
田中穂商店 田中穂商店
 棉花仲買
 雜穀仲買
 内外雜貨卸小賣
 テキサコ・ガゾリーナ代理店
 アンタルチカセルベイジヤ代理店
 バストスリクワタ乗合自動車部

相々種の棉伯
郎太作田和むまつを

された農村の有様な記憶に蔽ひしてゐる人は一層のことである。併し、ものゝ将来を卜するなどさ云ふことは人間出来る事ではない。出来たとしてもそれは天氣は併程度のもので、的確性と不的確性を兼備した恰むのものに止まる。だから將來を卜するといふやうな大それたことでなしに、一個の補花^{よこし}の最近種々相^{よみ}推してみると
棉作の反動的過剰

此の國の
植牛熱は
相當のも
のである
サンバタ
ロ州では
最近四年
間に約八
倍に進み
本年度の
收穫量は
一億八千
万キロさ
想定され
てゐる
こうした
急激な増
産が續いて
見して
植作は將
の効果は抹殺されつゝある
こうした變化があるから昨今
に急速な棉作地の擴大は自然
制約されて來るとは疑ひない、從
而项、點に左程變化なくとも此點
の影響は甚だしくある
が恐らく多くの植作者の内心にひ
そんでゐるやうだ、殊にサンバタ
ロ州で珈琲の反動、米の反動、さ
ては棉花などの反動的過剰によつ
て大なり小なり悲劇の舞臺に起つ
て来る何處へ行くか？ と云つた不安
が植作者の内心にひそんでゐるやうだ、殊にサンバタ
ロ州で珈琲の反動、米の反動、さ
ては棉花などの反動的過剰によつ
て大なり小なり悲劇の舞臺に起つ
て来る結果となるのである
最後に問題となるのに諸給關係の

昨今の棉花栽培に

○番手で平均五十番手である。ハンナン氏も、而して米柏御用の市場相場は、昨年七、八月を例にして比較するに、

月	日	米 M.	L.M.	伯紳
四	一	五十六	二三	一百六
十七	七	五十五	二二	一百五
廿四	四	五三	一九	一百四
卅一日	一	五一	一七	一百三
八月七日	七	五九	二一	一百一
十四日	一四	三六	一三	一百
廿一日	二一	三一	一三	九十九
廿八日	二八	三〇	一三	九十八
註記	ニミドリンク、L.M.は日本			
ヨーリンク、聖州	州紹四級			

単位一度度富り仙。

右表の如くである。惟々に英國の伯紳買附は割安の點と同時に、多大の輸出市場維持のため、また分散的買附けの表現を見られる、従つて英の賣附け、相場次第、米柏何れへも轉換し得るされるが、現在の米紹は國內情が、市價品上昇の要に迫られる、伯紳は生産品割安の點から尙商的か最も多くあるものがあるから此伯紳は將來相當英國を引つける力があらう。

次に獨逸も英國同様米紹の需要が、國で、三四四年度までは年一本百二十萬箱を喰入し、其量に於ては

○%を占めてゐる。元來英國は屬領を各地に有し、その内には有數の舗さく地がある。も拘らず、國內消費の大半は米に仰いでゐる。三四年度は百三萬担、三五年はズツと跡がなくて七十六萬三千担、昨年は百四十六万一千担である。而して印語輸入は日本が年百四十萬担、平均の輸入に對し僅かに三六年度四五萬担、三四、五年度は三十萬内外に過ぎない。埃及棉は其の出量の約四、五〇%の買附けてゐる。此輸入量によつても窺ふるゝ、英國の紡績は細絲を中心とする、埃及棉代用は海島棉以外は一切も得ないので結果、勢ひ伯船は一貫附りて米綿の轉換であらう。日の伯棉は品格に於て米綿に勝得するからである、即ち米綿のビジネス産の六〇一八〇番手を最高アラベマ産の二六一三〇番手を

州六
對
三
い
魅
魅
點
猶
事
考
第
少
含
の
事
本
百
本
伯
伯
國
國
入
杜
事
來
日本
主
印
地
主
輸
三
桶

に其の十日以内に十箇所の均勻な水桶を殆ども買付ける。此年は恰もその頃が最も忙しく、爲替預定が成立しないと定保送のために憂慮するが如きでもないが、獨逸上に伯國の市場開拓の要である。從來の獨伯貿易では、例外なしに獨の出超で國との貿易をコンベンションマークによつて決済せしものに獨逸は相常に伯國に恩惠はないなら實情にあつた。従つて獨逸の伯格買附けを見ると、貿易戻り均衡純りにあつた觀もある。これに比して獨の伯格買附けるこの報があるが、若し立すれば或は極端に見ても、セーションマークの決算が北米、獨逸間に進み定が北米、獨逸間に進むるこの報があるが、若し立すれば或は極端に見ても、セーションマークの決

たのは、
七割四分
日印會商
三五年度の貿易附けの少量なのは
年減少で、非常な高値になつた
めであらう。三年六年度の輸入量
大體米穀輸入減少高に相応して
る、重要なポイントは日本の伯備
支那まで決行
か紡市
更に荷物
港開拓の
に付する
世界を
世界を
大體以上の如くで、伯備の常
は米穀で、伯備の常長はかゝ
米穀の拮抗如何にあると想ひ
然るに米穀は今日その生産量が
高で、少くも平均十二仙臺の生
産を必要とするに對して、伯備は
轉じて餘穀を残し、生産量の點
於ては頗る有り難い。ゴンザン
である。これを見て見れば、今後
伯備の作業はその難堵の擴大を
模するより他、如何にして合
乎する工場が完成するかにあつ
たことは、
二國を同
入し、
の生産
して上記

米棉輸入	一、五五三千捆 一、五六七千 一、五四三千
印棉輸入	三六年 三五年 三四年
綿に替へ	一〇噸 上六月 獨伯通商
年で、	一、三一四千捆 一、三九六千 一、六四二千
何づ観	三六年 三五年 三四年
は英國以	一、三一四千捆 一、三九六千 一、六四二千
に迫られ	三六年 三五年 三四年
バランス	一、一八千 一、一八千 一、一八千
、殊に伯	三六年 三五年 三四年
ーション	一、一八千 一、一八千 一、一八千
めるため	三六年 三五年 三四年
點を許さ	一、一八千 一、一八千 一、一八千
るため金	三六年 三五年 三四年
そに丈英	一、一八千 一、一八千 一、一八千
は永続性	三六年 三五年 三四年
の戦線	一、一八千 一、一八千 一、一八千
はコンベ	三六年 三五年 三四年
済の貿易	一、一八千 一、一八千 一、一八千
みつ、あ	三六年 三五年 三四年
これがが	一、一八千 一、一八千 一、一八千
の戦線	三六年 三五年 三四年
としての	一、一八千 一、一八千 一、一八千

Japoneza
正賀
元旦月一
歯科醫
福
内外雜貨
謹賀新
松
昭和十二年
Casa Fukuti

年 旦 ラナ、ローランジヤ驛 兄弟工場 ラナ、ローランジヤ驛 八番市 郵函

年元旦
ラナ、ロンドリーナ市
地商店
鶴次

森下 本淮考
中曾根 雄進
柳川琢治
白林昌治
武木敦夫
相澤治平
長谷川二郎

賀正月一日

所地 部 十 大 治 治 進 進 學

地 住 移 ス ラ バ・ス
A-O 取扱
木 土 負 農 事
組 村

北 バ ラ ナ ト
運 載 請 搬 西

大販賣所 Faz. N. Igarapava
a/c Snr. Yamaguchi
Est. C. Procopio - E. F. S. P. P.
助之友家義 助之左家義
吉末村西 郎三來市
驛ニアリビ地耕
地耕バーバツラガイ・バーノ
志高 Faz. Congonha
Est. Pirianito - E. F. S. P. P.
社會式株地
理代務業経

Faz. T. Barras
Caixa, T. B.
Est. Jatahy P. - E. F. S. P. P.

助夫市恒村村西西

驛イタヤジ延住移スラバスト
町ヤジンラヒニア

賀正
日一月一

バストス商工組合

正賀
日一月一
浅沼邦行
馬車運搬業
北バラナ・ローランヴァル

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

バラナ裁縫學院

池田藤枝・マリヤ
公認裁縫教師

正賀
日一月一
農産物仲買商
白石重徳

ソロカバナ線ラントナリヤ
電話十一番 郵局二十一番

年新賀謹
日一月一
雜貨商
瀬戸商店
バスストス市街地 渡

正賀
日一月一
建築債券取扱所
工場指定旅館
大坂屋
地街市ストスバ

正賀
日一月一
ソルベタリア
向井延一
北バラナ・トレスマラス移住地 アサヒランジア町

正賀
日一月一
【規則書申込次第進呈】
内外雜貨
農産物仲買商
中易商店
北バラナ・トレスマラス移住地 アサヒランジア町

BAR
NippoBrasileiro
正賀
日一月一
茶屋伯男
橋永洋服店
橋 永 萬 三
ソロカバナ線ラントナリヤ
郵局一三三

正賀
日一月一
歯科醫
仲愛忠樹
瀬戸商店
バスストス市街地 渡

正賀
日一月一
建築請負業
家具製造
林秀男
奥野末松
北バラナ・トレスマラス移住地 アサヒランジア町

正賀
日一月一
ソルベタリア
西村洋服店
北バラナ・トレスマラス移住地 アサヒランジア町

正賀
日一月一
靴製造業並に
農産物仲買商
山田新市
北バラナ・トレスマラス移住地 アサヒランジア町

正賀
日一月一
内外雜貨
農産物仲買
宇佐見信一郎
安谷屋長善
ソロカバナ線ラントナリヤ
郵局一七〇

正賀
日一月一
土木建築請負
家具製造
佐藤福太郎
バスストス製材所
バスストス市街地
電話一〇〇

正賀
日一月一
自轉車販賣修繕業
アウンリヤ建築會社代理人
小池秀男
北バラナ・トレスマラス移住地 アサヒランジア町

正賀
日一月一
建築請負業
指物製造販賣
中川原實
出張所北バラナ・トレスマラス移住地
本店北バラナ・ロンドリーナ市
アサヒランジア町

正賀
日一月一
有責任
限任
年新賀謹
日一月一二十和昭
合組業產スラバスト
同一員合組
北バラナ・トレスマラス移住地
アサヒランジア町

Hotel Asahi
正賀
日一月一
内外雜貨
農産物仲買
伊藤新吾
ホテルアサヒ
ソロカバナ線ラントナリヤ
郵局五四

年新賀謹
日一月一
喪中に付年賀缺禮仕り候
岩井兼一
バスストス市街地
電話一〇〇

正賀
日一月一
内外雜貨
島田静子
ソルベタリア
眞榮田義勇
北バラナ・トレスマラス移住地
アサヒランジア町

正賀
日一月一
建築請負業
指物製造販賣
中川原實
出張所北バラナ・トレスマラス移住地
本店北バラナ・ロンドリーナ市
アサヒランジア町

謹
一
簡易食堂
パール・ソルベタリア
ソロカバナ線ラントナリヤ
郵局一七

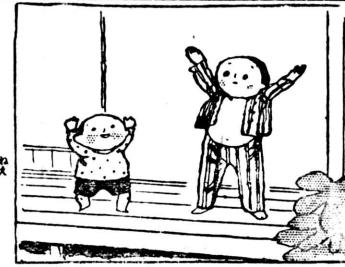
年新賀謹
日一月一
ソルベタリア
バール山川
山川吉次郎
バスストス市街地
電話五

正賀
日一月一
内外雜貨
横山商店
ミウデーラス
北バラナ・ロンドリーナ市
郵局六〇番

正賀
日一月一
建築
今野製材所
唯一ノ低廉
北バラナ・トレスマラス
アサヒランジア郵局四番

年新賀謹
日一月一二十和昭
合組業產スラバスト
同一員合組
地住移ラバスト ナラバ北

お茶碗の音で、今、眼をさました夢雄さんは、いきなり飛び起きると、ぐつと、下腹に力を入れると——今は十からぬ……といひました。すると、お姉さんの、萬里子さんが、ドアを開けて、お母さんが来て——



——お姉さんは、なにしてんの？——僕——
——いひながら、ちよつと氣まわるさうな、顔をする。
——今ね、ラヂオ體操やつてんの？——僕——
——それを聞くと、お姉さんはあきれたやうに、聞きました。
——夢雄さんは今、何時頃だ？——僕——
——と、夢雄さんが、口をとがらしていふと、お姉さんは——おほ、
——と、夢雄さんが、口をとがらしていふと、お姉さんは——おほ、
——と、時計を見てみなさい。
——ですから夢雄さんは——おやすみのときだけ、
——おひながら、ドアを開けると、茶の間の時計を見——

——そりやア、さうだけど、いつたかと思ふと、——ム——
——夢雄さんはしばらく黙つてゐてから、いひました。
——おやすみのときだけたらそんなに、早く起きなくていいぢやア？
——と、いひながら、ドアを開けると、茶の間の時計を見——

——時計は、今、九時四十分
——お姉さんは、さつき、おなかをさすりながら、いつのまにはお餅のことだったのは、お餅のことだったのです。
——そこへ、お母さんが来て——
——早く、顔を洗つていらつしやい。今頃まで寝てゐるのは夢雄さんだけよ。

——さうよ。
——さうよ。
——お母さんが、氣まわる笑つてから——
——おやすみのときにはそんなに勉強なんかしなくていいでしよう、だからなのよ。
——いひました。
——その時でした。お父さんが——
——さうよ。

——さういひながら、いそいで、カルサをはくと、夢雄さんは、洗面所へ行つて顔を洗ふと、すぐに茶の間へ行きました。

——夢雄、なにをしてゐるのだ？——ハイ。
——さういひながら、いそいで、カカルサをはくと、夢雄さんは、洗面所へ行つて顔を洗ふと、すぐに茶の間へ行きました。

——お父さんは、夢雄さんの顔を見るより早く、いひました。——おまへはさつき、ラヂオ體操をやつたさうだ——
——おなかが一ぱいになつた夢雄さんは、日あたりのエランダで、體操をはじめました。おなかをすこしすかさうといふのです。

——お一二、お一二……
——おなかを出したり、ひとつこめたり、へんな體操です。するとそこへ、四つになる弟の日出男さんが来て、夢雄さんのまねをはじめました。

——お一二、お一二……
——お父さんたら、なんでも話してしまふんだから——
——正月の一日です。

録附大いし晴素より見



お待ちかわの新年號が出来ました

新 年 號 地 各 年 新

容内の映画園の供子

楠 公 父 子

「國亂れ、忠臣出で、家貧しくて學

子出づ」賊、大軍を一手に受け、時

の天子を護衛天皇を助けする備正成

正行の物語、見よ渡くとして見られ

ないこの大歴史映画を

世界に伸び行く日本の文明、讀べよ、

日本が、この世界に成し遂げた偉大

な功績を

此の一大事變を

満洲事變・上海事變

正義の爲に満洲國を助けていた法なる支

那の神戸で開港した日本海大津港

那の元帥の功業を記念して開港した日本海大津港

た子供さん方の爲是非御注文下さい

断然！第二世教育の鍵たる

園の供子

どうすれば立派に教育が出来るか、これは子を持つ親の齊しく考へる大きな問題である、殊に奥地不便な移植民に在る人々に取つては、忘れ得ぬ大きな悩みではないですか。子供は毎日学校に行つて先生から教へを受け、立派な人成るため勉強を続けるのではあります、然し之を應用して効果附けますには、只學校委員会にて指いたのでは不充分たるを免かれません。そこで文明國人は色々と考へての末、學校以外の讀物を子供に供給し之に由つて教育の進歩を圖つてゐるのであります、本社發行の「子供の園」は此の必要に迫まられて生れ出た

子供は毎日学校に行つて先生から教へ受け、立派な人成るため勉強を続けるのではあります、然し之を應用して効果附けますには、只學校委員会にて指いたのでは不充分たるを免かれません。そこで文明國人は色々と考へての末、學校以外の讀物を子供に供給し之に由つて教育の進歩を圖つてゐるのであります、本社發行の「子供の園」は此の必要に迫まられて生れ出た

子供は毎日学校に行つて先生から教へ受け、立派な人成るため勉強を続けるのではあります、然し之を應用して効果附けますには、只學校委員会にて指いたのでは不充分たるを免かれません。そこで文明國人は色々と考へての末、學校以外の讀物を子供に供給し之に由つて教育の進歩を圖つてゐるのであります、本社發行の「子供の園」は此の必要に迫まられて生れ出た

子供は毎日学校に行つて先生から教へ受け、立派な人成るため勉強を続けるのではあります、然し之を應用して効果附けますには、只學校委員会にて指いたのでは不充分たるを免かれません。そこで文明國人は色々と考へての末、學校以外の讀物を子供に供給し之に由つて教育の進歩を圖つてゐるのであります、本社發行の「子供の園」は此の必要に迫まられて生れ出た

正月号からすぐ購読を申込みませう

買ひろこねたら一生の損です



うかれ
サボテン

月夜の晩にクロンガがふく
かふいたら

甲「ねい君、正月早く言ひた
くはないが、例の金はいつ返して
来るんだ?」

乙「今年末までに屹度返すよ」

甲「弱るなあ。君は先月さう言
ひたぢやあないか、大晦日まで
には屹度返すからって……」

乙「つたさ。来月又さう言
ふよ。懶り作ら。僕は毎月達つた
事を言ふやうな男ぢやないから
良」

俺も男だ!

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

内外雑貨商

平田安賴
平田商店

正旦元月一
賀 堤旅館
喜作

ソロカバナ線サンタ・クルース
ド・リオ・バルド隣ビーラ・エス
ピリット・サント・ド・ツルボ

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

木田商店

内外雑貨卸小賣
棉花仲買商
電話一〇七

バール米田
公園前シネマ館内
電話八六一三七

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

内外雑貨商
農産物仲買
運搬業、貸自動車

須田正治人
澁谷商店

内外雑貨商
農産物仲買
運搬業、貸自動車

ソロカバナ線サンタ・クルース
ド・リオ・バルド隣
サンタ・クルース・ド・リオ・バルド隣
ピラ・エスピリット・サント・ド・ツルボ

齊藤甚七
齊藤商店

内外雑貨
貨自動車
運搬業

ソロカバナ線サンタ・クルース
ド・リオ・バルド隣
ルア・セヨゼード
バトロシード・オニケン

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

内外雑貨商
加藤商店
加藤滿

新賀年
月旦
内外雑貨商
加藤商店
加藤滿

謹賀新年

昭和拾二年一月一日

小宮山商店
小宮山祝

ソロカバナ線アグードス隣
セツラ・デ・セツテンブロ街四一
電話四一 郵函一一

内外雑貨商
農產物仲買

上行ます
何卒宣しく御引立の程願
上げます

私事舊臘開店致しまして
薄利多賣主義で皆様の平
素の御愛顧に報ひんこ努
力致します

何卒宣しく御引立の程願
上げます

素の御愛顧に報ひんこ努
力致します

何卒宣しく御引立の程願
上げます

ソロカバナ線サンタ・クルース
ド・リオ・バルド隣ビーラ・エス
ピリット・サント・ド・ツルボ

ソロカバナ線サンタ・クルース
ド・リオ・バルド隣
セント・クルース・ド・リオ・バルド隣
ピラ・エスピリット・サント・ド・ツルボ

正旦元月一
賀 堤旅館
喜作

謹賀新年

昭和十二年一月元旦

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

内外雑貨商
農産物仲買
運搬業、貸自動車

須田正治人
澁谷商店

内外雑貨商
農産物仲買
運搬業、貸自動車

ソロカバナ線サンタ・クルース
ド・リオ・バルド隣
サンタ・クルース・ド・リオ・バルド隣
ピラ・エスピリット・サント・ド・ツルボ

齊藤甚七
齊藤商店

内外雑貨
貨自動車
運搬業

ソロカバナ線サンタ・クルース
ド・リオ・バルド隣
ルア・セヨゼード
バトロシード・オニケン

療養地 さして氣候に惠むる療養機關、拾余のサナトリウム（小供専用二、日本人經營療友會）

づくした、莊園なベン・カローが立ち並ぶ、此の別荘地帯を控へ人口はリオ、サンパウロ市場を目的に高山を利用し四季を通じ抑制速成を

七年十一月二十日
全快の鏡を握めよさ
する。
（一九三六・一二
夜）

•六脱稿す)

謹 賀 新 年

北バラナ・トレス・バラス
移住地御視察者には特に
御便宜を計つて居ります

ウリンニヨス驛
郵函 一五

依り必要なる場合にはコンサルト、すなへてあつまり親切な診療を受ける。六時半に夕食を済せ暫く自由かわいがる。娯楽室に着む。九時更に体温計り眠りに就く。これがナシナシの日常生活である。病人の程によつてドットルが二十分より四十分まで眼鏡度数をする散歩も許斯くの如く總てが規則正しく専門の指示により生活をする。又曜日には聖堂に集まりミサに神的に神の救ひを求める肺病不癒者などは誰が云ひ初めか、天然に恵まれたこの仙境で、早さは一ヶ月、重病者さえも二年間の渾身の努力に鞭ひられ丸るゝ肥さつて病前に勝る健體を得て全快の欣びに躍る者既日本人のみでも二十餘名に達し

幸にして
日に日に
陸はみ行
く胸の病
ひ「懨む
ものでは
若い人よ、
肺等の病
は決して
絶望的の
ない、必
ず治り得
るのであ
る。余は
過去一年
八ヶ月カンボス・ド・ヨルドンに来て搔癬を燻けたが患
まれた當地の氣候に依り正に全快期
喜びにみちみちて
ゐるこの氣持を私するにしおびないまゝ伯刺西爾時報紙
の厚意にすがり同胞に當地の事情を紹介し、参考に供し
たいと思ふ

病に悩む若人よ 來たり 天惠に浴せ

一ノ。カリスあり、此の兩者に体
まれてナントリオ、發電器、コン
トルリオ、イケレーナ、シ
ネマ、學校、カーマ、ホタルム
び大小雜貨店等軒を並べてゐる。
郵便局のまへに、週二回開かれる
中央メルカードもあり、牛乳上河

すの一室でガラスミミと寝込みば、何時の間にやら夜明けだ。紅い口の出を迎へ森の小鳥達は梢で樂しまぐつてゐる。先づ一夜の安眠に対する感謝が輝かしい今日も暮れなま護り給へと神に默禱して朝の禮拝記入する。

賀 正 一月元旦 東勝次
歯科醫 賀 正 一月元旦 天顏忠盛

正賀
旦元月一
—
遠渡旅館
英一
ソロ・サンタ・クルス・ドリサ・バルド
ゴンセレイロ・ダント街五九五
内外雜貨商
永田商店

正賀
旦元月一
— 雜貨商 ベンソン
池本商店
ソロ線バラケワースー驛番宿四四番
電話六〇九
ソロ線ブ・ベルナルデス驛前

正賀
旦元月一
農產物仲買商
竹川時太郎
ソロカバナ線バラカワス一勝町八八番

謹賀新年

サンタ・クルス
ダ・ボア・ビスタ町

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

謹 賀 新 年
昭和二十一年一月一日

謹賀新年
一月元旦
内外雜貨商
村上商店
村上一夫
ソロカバナ線バラグワヌー
ルテシヤ町郵國三五
市スドーグア線ナバカラソ
八十四話電七十幽郵

インペリアルミシン代理店
萩原仁平次
アグードス市
商店部

HOTEL RIBEIRA
K. KOMATSU
Caixa Postal, 29 REGISTRO

謹賀新年
昭和十二年一月元旦
和洋御料理仕出し
レデストロ市街地 郵函二十九番
御旅館 リベイラ 小松敬一郎

謹賀新年
且元月二十日和昭

仲 反 貨 物 小間物
並 ピンガ製造

大澤商店
大澤爲吉
レデストロ

謹賀新年
且元月二十日和昭

内外雜貨、穀物、反物
小間物、金物、仲買
渡邊兄弟商會
渡邊昇理
支店
主任 梅津啓吉
ジユキア駆
レデストロ市街地 郵函三・電話二

正賀
且元月一

雜貨商
大鹿慶太郎
レデストロ

中原長次

正賀
日一月一

朝沼傳一郎
建築並家具
製作請負業
レデストロ

正賀
且元月一

旅館富彌
第二アリアンツ移住地中央區

CASA MYOTIM

明珍兄弟商會
明珍義臣
伸男

ジャボナカバル市
サンセバスチヨン街四二

雜貨食糧品
日本品販賣
棉花雜穀仲買

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

Casa Ideriba
M. Ideriba
CAIXA 44 REGISTRO

出利葉商店
レデストロ

謹賀新年
昭和十二年一月元旦

正賀
年二十和昭
且元月一
…▷…

汎ペラクルース中央日本人會

西島鐵工場
レデストロ市街地

正賀
昭和十二年一月元旦

隅田福松
レデストロ市街地
郵函四二・電話四

正賀
且元月一

中村商店
ノロエステ壁紙線
中村義雄
モジ駆前百六十八番

正賀
且元月一

出森商店
内外雜貨食料品
出森金藏
モジ駆前百六十八番

正賀
且元月一

チ工テ木テル
チエテ移住地内第一市街地アラホ指定旅館
旅館主田中友代
モジ駆前百六十八番

正賀新年
一九三七年一月元旦
歯科醫同小原數巧太

正賀新年
昭和十二年一月元旦
廣岡金作
レデストロ市街地
郵函一五・電話一四

正賀新年
昭和十二年一月元旦

正賀新年
昭和十二年一月元旦
隅田福松
レデストロ市街地
郵函四二・電話四

正賀
桑本一志
昭和十二年一月元旦
グワラ駆

正賀
五島宅省治
北バラナ・カンバラ市 郵函一番

正賀
三宅省治
北バラナ・カンバラ市 郵函七番

正賀
バール嘉陽宗陽
北バラナ・カンバラ市 郵函三三番

正賀
秋吉忠行
北バラナ・カンバラ市 郵函七番

正賀
丸野清
北バラナ・カンバラ市
ノロエステ壁紙線
カララツベス司

正賀
松熊藤太郎
北バラナ・カンバラ市
アラサツーバ市

正賀
新里次良
ノロエステ壁紙線
アラサツーバ市
近代的型美髮より
明朗なるサロン

Escola Remington
Rua Nilo Peçanha 46 Caixa Postal 317
Pres. Prudente

伯國各般の商用通信文實地教授
タイピスト 短期養成
書間部、夜間部、隨時入學可
政府認可
ドンベードロ二世簿記學校
ジユオントランド商業學校
ルアニーロ・ベサニヤ四六
郵函三二七

正賀
且元月一

角町洋服店
北バラナ・カンバラ市
悟悟

SHINKO-SHA
YOSHIMI IZUMI
Novo Oriente N. O. B. Lussanira

正賀
且元月一
昭和十二年一月元旦
美術繪寫印刷
各種用紙
北西線ルツサンヴィラ駆
チエラ移住地ノーボオリエンテ町

正賀
且元月一
一月元旦
療友會
カンボスド・ジョルドン
カントンニッポンジヤ町

正賀新年
昭和十二年一月元旦

伊藤齒科醫院
伊藤達馬

